

番号ポータビリティに関する 当社の意見

株式会社 アイ・ピー・エス・プロ

2024年5月30日

IPSPROが提供する音声電気通信役務

当社は2002年に旧カナダ・テレグローブ社の日本事業を買収したことにより本格的に電気通信事業を開始し、現在提供中または提供予定の音声電気通信役務は下記のとおり

役務内容	サービス種 (事業者コード)	電気通信番号等
自社提供	国際中継(2204)	0031 0032-(国内中継番号帯を除く)
	国内中継(5039)	0032-11,22,82
	ISDN(5039)	03-5050-FGHJ 03-6110-FGHJ
	特定IP 050IP(5040)	050-505F-GHJK
再販	0ABJ-IP 050IP 0120/0800/0570	NTTコム(IP-Voice) KDDI(光ダイレクト)
自社提供予定 (2025/04)	着信課金 0120/0800 統一番号 0570	0120-908-GHJ 0800-908-GHJK 0570-908-GHJ

付加的役務＝着信課金(0120/0800)

➤ 番号の使用の見通しについて

- ・ 他社の再販を利用して提供中
 - 0120：約6000番号、0800：約500番号
- ・ 来年度より自社のサービスとして開始を予定
- ・ 本サービスに対する顧客ニーズは増加傾向にあります

➤ 番号ポータビリティの必要性について

- ・ 着信課金番号は顧客の希望を考慮して、割り当てるケースが多い
- ・ 顧客は番号の周知に、多大な時間とコストをかけている
 - 以上を考慮すると、サービス提供事業者を変更するためには番号ポータビリティは必須と考えます

➤ 番号ポータビリティの方法について

現状はENUM方式だが、各社で合意できるのであれば本方式に限定される必要はないと考えます

➤ その他

着信課金は0120が広く認知されている番号であるが、顧客の希望（語呂合わせ、覚えやすいなど）により利用番号を決めるケースが多いため、指定率は99%と逼迫しているのに対し、番号利用率は55%程度
事前番号ポータビリティにより、ある程度は顧客の希望に沿うことはできるものの、今後の対策として、0800の周知、番号桁数の増の検討等が必要と考えます

〈参考〉 https://www.soumu.go.jp/main_content/000509967.pdf (P67)

付加的役務＝統一番号(0570)

➤ 番号の使用の見通しについて

- ・ 他社の再販を利用して約350番号を提供中（内200番号は直近1年ほどで増加）
- ・ 来年度より自社のサービスとして開始を予定
- ・ 本サービスに対する顧客ニーズは増加傾向にあります

➤ 番号ポータビリティの必要性について

- ・ 番号ポータビリティに関する顧客ニーズは低く、必要性は低いと考えます

➤ 番号ポータビリティの方法について

各社が必要と判断し、各社で合意できるのであれば、方式にはこだわりません

➤ その他

コールセンター事業者にとって、本サービスは複数のセンターを一つの番号で運用できることと、料金負担が顧客(発信者)であることから、着信課金等の通話料負担を敬遠する法人に支持されているサービスであるという認識です

他方、本サービスが発信者課金であるという認知度が低く、携帯電話の定額料金に含まれないため予想外の通話料を請求されることによる顧客の苦情が散見されます

通話料の低廉化（PSTNマイグレで一定程度は実現）や定額通話に含める等の業界を挙げての対策が必要と考えます

特定IP電話(050)

➤ 番号の使用の見通しについて

- ・ 自社サービスと、他社の再販を利用して提供中

自社サービス：約48,200番号

他社再販：約17,700番号

- ・ 本サービスに対する顧客ニーズは増加傾向にある

➤ 番号ポータビリティの必要性について

クラウドCTI事業者でも050番号の採用が増えてきており顧客よりポータビリティの要望があがってきている（顧客ニーズが出てきている）と認識しています

➤ 番号ポータビリティの方法について

各社が必要と判断し、各社で合意できるのであれば、方式にはこだわりません

➤ その他

2023年7月ごろ、他の事業者より050番号の番号ポータビリティに関して協力要請があったため、他社でも必要性を認識しているものと思われる